NIE実践報告

１．タイトル：新聞を比較してみよう

２．学校名

札幌市立米里小学校

３．実践者名（代表者名）

森田雅哉

４．学年

第５学年

５．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会　２７人

６．単元（本時の学習課題）名

くらしを支える情報（情報を伝える人々）

７．目標(狙い)

２つの新聞（同じ新聞社・同じ日の本社発行版と地方発行版・早版と遅版）の比較を行うことにより、地域に密着した情報やより最新の情報を伝える新聞社の思いや使命に気づく。

８．評価の視点

積極的に２つの紙面を比較する事ができ、地域密着や最新・正確な情報を伝えたい新聞社の思いを紙面より発見することができる。

９．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

くらしを支える情報（１２時間）

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

①私たちのまわりにある情報源について考えよう（１時間）
②天気予報は何でしりますか（１時間）
③ニュース番組が１日に何回も放送されるのは（２時間）
④新聞はどのように作られるのか（１時間）
⑤新聞はどのように届けられるのか（１時間）
⑥同じ新聞社、日にちで掲載内容が違うのは（１時間）
⑦新聞にはなぜ早版と遅版があるの（１時間）
⑧情報の発信者として、活かし手として（４時間）
（留意点）
・発見や相談がしやすいよう、３人に各１紙の資料を用意する。
・国語の「ニュース番組作りの現場から」「工夫して発信しよう」「編集して伝える」とも結びつけて学習を進める。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

紙面の比較は、記事だけでなく、写真や広告・タイトルバックの模様にいたるまで積極的に発見し、話し合うことが出来た。新聞社の思いや使命にもふれることができ、子供たちの新聞の見方にも変化が見られた。

12．成果と課題

本実践も含め、日常的にさまざまな方法で新聞を取り入れてきた。新聞を読む習慣のない児童、新聞をとっていない家庭も過半数を超える実態の中で、新聞に興味を示す児童も多くなってきた。教室でニュースの内容が話題になることもあり、徐々に新聞が児童の中に認識されている。新聞社のバックアップにより学年児童全員に朝刊が４ヶ月支給されたこともあり、成果は大きかった。比較記事の原稿や情報を新聞社からいただけたのもありがたかった。どの記事や特集を活用するのか。学習内容にタイムリーな記事の与え方など今後の課題である。